

第4学年 国語科改善学習指導案

公開授業1
授業者 井上 淳子

- 1 単元名 「説明のしかたを工夫して、分かりやすく伝える文章を書こう。」
学習材名 「クラブ活動リーフレットを作ろう」(光村図書4年下)

2 単元について

(1) 学習者について

児童は、これまでの書く学習において、4学年「新聞を作ろう」をはじめとして、中心を明確にし、目的に応じて書く学習をしている。また、3学年では、学習材「食べ物のひみつを教えます」を通して、目的に適した事例を複数挙げながら、説明する文章を書くことについて学習している。

児童は、自分の思いや考えを書く活動において、個人差が大きく、書き表すことが苦手な児童も少なくない。また、考えを書くことはできるが、それを全体の場で発表しようとする児童は限られている。しかし、友達の考えからヒントを得ようとしたり、時間を多く要しながらも書き上げようとしたりする粘り強さがある。

日常の学習活動では、国語の学習に意欲的に取り組むことができている。話し合う活動を好み、新しい考えに気付いたり、相手に伝え受け止めてもらえる心地よさを感じたりしている児童も多にいる。このような実態から、友達とのかかわりを通して、児童個々がより深く学んでいくことのできる学習環境を整えていきたい。

(2) 学習材について

本単元では、「説明のしかたを工夫して、3年生に4年生の活動の良さを分かりやすく伝える文章を書く」言語活動を通して、「資料を活用して事例を挙げながらまとまりで説明したり、段落相互の関係に注意して文章の構成を考えたりする」ことができる資質・能力を高めていく。

本学習材「クラブ活動リーフレットを作ろう」は、調方を工夫し、リーフレットを作成することを学習のゴールとして文章を構成することや、内容に合う写真を添えたり、見やすい内容に適しており、前単元「アップとルーズ」から学ぶことができる。さらに、説明する相手を3年生に設定することで、**読んでもらう**意識をもたせ、リーフレット作りの意欲を高めていきたい。また、個人で書いたリーフレットを3年生に**読んでもらう**学習活動を行うため、読み手を意識した内容や構成を考えたり、よりよい表現に書き直したりする必然性をもたせられる学習材であると言える。

児童は「筆者」として書いている。
読んで理解してもらうことを目標にしているため。

分かりやすく伝えるように、書き段落相互の関係に注意し、やさしい文章を書くことねとしながら書き進めること

本単元で身に付ける資質・能力は、資料を活用して事例を挙げながらまとまりで説明したり、段落相互の関係に注意して文章の構成を考えたりすることであり、学習活動全体に渡る書く活動や、週末に取り組んでいる作文、御礼の手紙を書く際などの日常生活に活用することが期待できる。

(3) 指導に当たって

第1次では「つかむ」段階として、教師が作成した複数のリーフレットを提示することで、リーフレット作りへの興味をもたせる。それらのリーフレットから、特徴を確かめたり、目的や相手を明確にさせたりすることで、どんな内容のリーフレットを作るかを話し合わせる。「説明のしかたを工夫して、3年生に分かりやすく伝える文章を書く」という学習のゴールに向けて、学習計画を立てさせていきたい。

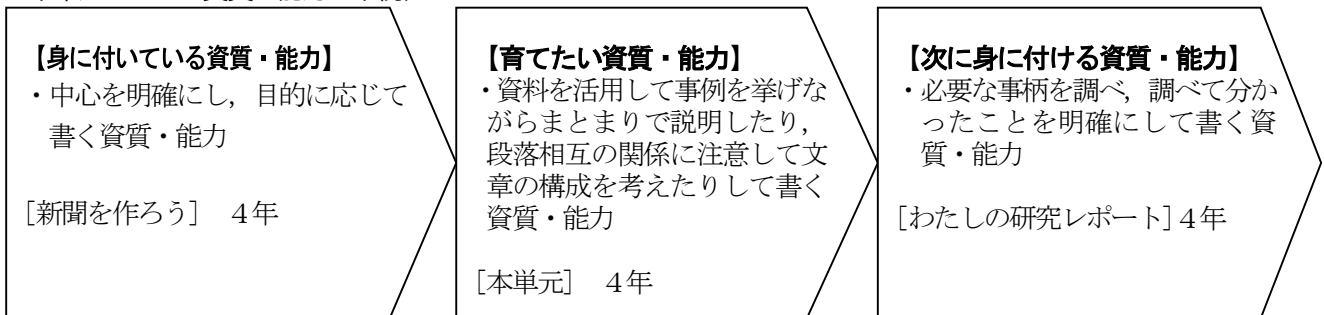
第2次では「きく・あらわす」段階として、まずは文章構成について捉えさせる。「初め・中・終わり」の役割を想起させ、自分の作るリーフレットの「中」の部分に当たる内容を選択させる。ここで、選択した内容が3年生に分かりやすく伝えるように写真を取り入れることを確認する。自分だけではなく、友達とも話し合いながらより適切な構図を考えられるようにする。その後、内容に合う写真を添えながら、写真とまとまりが合うような中の部分を書く活動を行わせる。下書きを書かせた後には、それぞれの段落の役割が明確になっているかどうかを段落ごとに見直す活動を取り入れる。3年生に伝わりやすい書き方になっているか、説明のしかたの工夫を提示しながら確認させたい。清書後には、表表紙や裏表紙にも伝えたいことの紹介を書き入れさせることで、3年生に興味をもってもらえるリーフレットの完成を目指す。

第3次では「いかす」段階として、3年生にリーフレットを読んでもらい、感想をもらうことで達成感が得られたり、もう一度自分の書いたリーフレットを読み返したりする活動を取り入れていく。

3 単元の指導目標と評価規準

	指導目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	・目的に合わせて、文章を書いたり、資料を活用したりすることができる。	・自分の思いをもち、それに合った文章を書いたり、写真を選んだりしようとしている。
書く能力	○リーフレットにおける段落の役割を理解し、伝えたいことが明確になるように、段落の役割を意識して文章を構成できる。 ◎書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて資料を活用しながら、理由や事例を挙げて書くことができる。	・目的に合わせて、伝えたいことが明確になるように、中の二つの段落の関連を考え、文章全体を組み立てている。【(1) イ】 ・目的に合わせた事例について、選んだ写真と文章を対応させて書いている。【(1) ウ】
言語についての 知識・理解・技能	・句読点を適切に打ったり、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書いたりすることができる。	・句読点を適切に打ち、必要な箇所は改行している。【(1) ウ】

4 本単元における資質・能力の系統性



5 学習指導計画 (全10時間)

指導過程	主な学習活動	【評価規準】(評価方法)
第1次 「4年生わくわくリーフレット」を作る見通しをもつ。説明する相手と内容を決め、整理する (2時間)	① ②教師作成のリーフレットを提示し、単元のゴールをイメージさせ、学習への意欲をもたせる。4年生になってから取り組んだ活動を、ウェビングマップを用いて話し合う。リーフレットを作るための学習計画を立てる。	【関】 ・4年生になってから取り組んだ活動を紹介するリーフレットを、写真と文章を組み合わせて作ることに意欲をもっている。(観察) ・リーフレットを完成させるまでの計画を立てることができる。(観察)
第2次 相手に伝わりやすい書き方を理解し、リーフレットを書く。 (7時間)	③ リーフレットを作る目的を明確にし、取材する。 ④ 目的に合わせて、伝えたいことが明確になるような「中」を考える。(本時) ⑤ ⑥リーフレットの下書きをする。必要に応じて修正する。	【書】 ・リーフレットを作るための材料を取材することができる。(ワークシート) 【書】 ・目的に合わせて、伝えたいことが明確になるような「中」に書きたい内容を選び、順番を考えることができる。(ワークシート) 【書】 ・具体例を挙げながら、下書きをすることができる。(ワークシート)

	<p>⑦ 書いた文章を互いに読み合い、句読点や表現の仕方などを確認し、よりよい文章にする。「中」の部分を書き直す。</p> <p>⑧ 表表紙と裏表紙に書くことを決める。書き直し、リーフレットを仕上げる。</p> <p>⑨ グループごとに仕上げたリーフレットを紹介し合う。</p>	<p>【関】 ・友達の下書きを読み合い、良さや改善点などを見付け、伝え合っている。 (発言・観察)</p> <p>【言】 ・正しく句読点を打ったり、必要な箇所は改行したりしている。 (リーフレット)</p> <p>【書】 ・表表紙、裏表紙に書く内容を考え、書くことができる。 (リーフレット)</p> <p>【関】 ・友達のリーフレットを読んで、良さを見つけ、伝えている。 (発言)</p>
<p>第3次 3年生からの感想を読み、見つめ直す。 (1時間)</p>	<p>⑩ 3年生からの感想を読む。自分ができるようになったこと、これから気をつけたいことなどを振り返り、友達と交流する。</p>	<p>【関】 ・振り返ったことをもとに、今後活用できるような意欲をもっている。 (発言)</p>

6 本時の指導 (4/10)

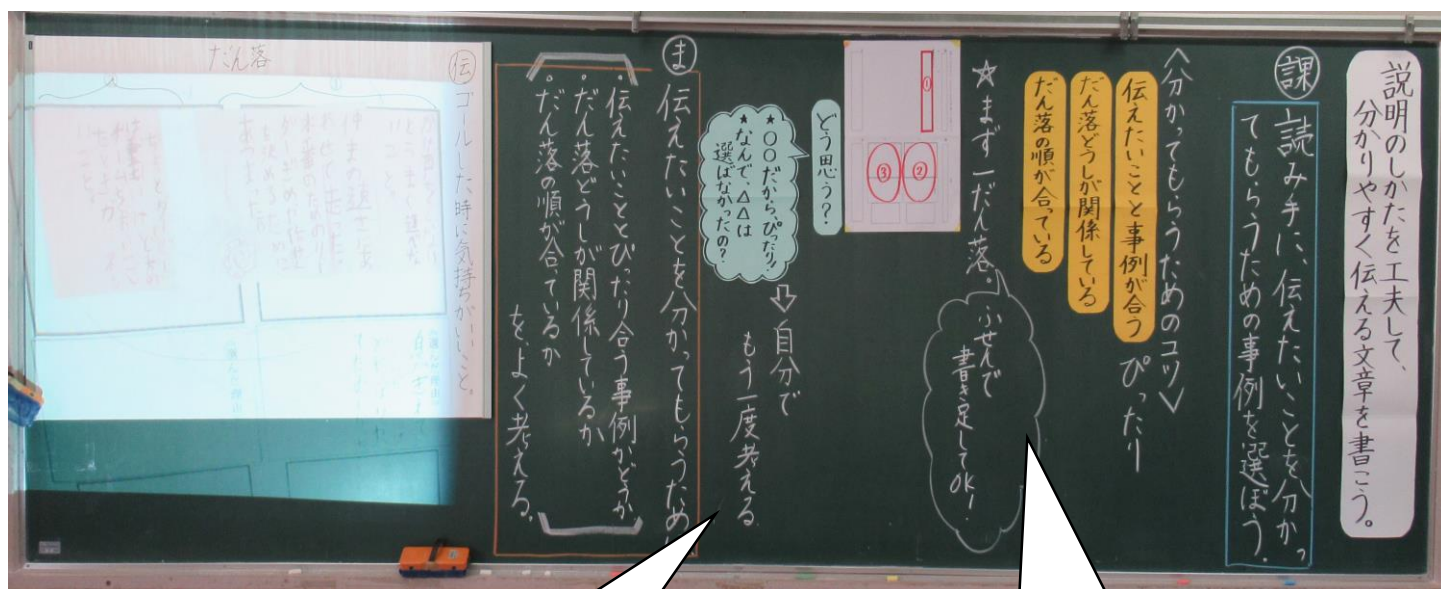
(1) 目標 目的に合わせて、伝えたいことが明確になるような「中」を考えることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	学習内容	指導上の留意点	◇評価・準備物
つかむ	1 前時を想起する		つかむ ・前時までに組み立ての「初め」「終わり」を書いたこと、本時は「中」を考えることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 封筒 ワークシート
	2 課題を把握する	読み手に伝えたいことを分かってもらう方法を考えよう。		
大きく・あらわす	(1) 見直しをもつ	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことを根拠にすること 二つの内容の関連性に気をつけること 順番を考えること 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の伝えたいことをもう1度押さえさせることで、選ぶ基準を明確にする。 見直しをもてない児童には、既習の掲示を確認するように促す。 	<p>ふせん</p> <p>前時に行う取材活動を必要な物に絞る。そのことにより、段落を考える上で必要な材料を書き足せるようにする。</p>
	3 課題を解決する (1) 付箋を選択し、順番を考える	<ul style="list-style-type: none"> ○伝えたいことが伝わり、読み手が納得する 	<ul style="list-style-type: none"> 付箋は1段落に1枚ではなくても良いことを確認する。 ワークシートには、選んだ理由も記述するように伝える。 まずは1段落ずつ行うことを伝える。 取材内容が足りない時は、随時書き足して良いことを助言する。 	
	(2) 考えを交流する		大きく・あらわす	

<p>きく・あらわす</p> <p>いかす</p>	<p>(3) 全体で交流する</p> <p>(4) 個人で確認する</p> <p>(5) まとめる</p> <p>4 振り返る ・次時以降の学習を確かめる</p>	<p>事例の选材をすること</p> <p>○2つの段落の関連性や順序に着目して記述すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことと事例が合うかどうか、事例同士が関係し合っているか、順番は適当かを視点に話し合う。 ・実物投影機を用い、話し合われたことを視覚化する。 ・グループでの話し合いの流れを再現することで、伝えたいことと選んだ事例が合うかどうかを確認する。 ・自分の选材した事例が、伝えたいことと合うのかを改めて確認させる。 ・読み手に分かってもらうために、自分で気をつけたことを「段落」などの言葉を用いて記述する。 <p>いかにす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後どのようなリーフレットにしていきたいかを観点にして振り返りを書くことで、次時以降への意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機 <p>◇目的に合わせて、伝えたいことが明確になるような内容を選び、順番を考えることができる。 (観察・発言・学習プリント)</p>
---------------------------	---	---	---	--

板書計画



グループ学習後、再度自分で考える時間を確実に確保するため、あえて記載する。

まずは一段落だけ考える。そこから付箋を書き足して良いことを伝える。